

各校取り組みの一例をご紹介します

勝山市のESDの歩み

豊かな自然と古い歴史がある勝山市。山岸正裕市長が、平成12年の市長就任から掲げる「エコミュージアム（*1）の理念のもと、地域の魅力を発掘・発信する活動が広まりました。平成21年には市内全域をエリアとする「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」として日本ジオパーク（*2）に認定されるなど、地域の魅力を学ぶ場が豊富です。

このような土地柄から環境教育が盛んで、平成24年5月には第20回環境自治体会議（*3）が当市で開催され、全国に勝山市の持続可能なまちづくりを発信しました。

その機運に乗り、さらに環境教育を発展させるため、勝山市はESDを推進するユネスコスクールに公立全12小中学校が加盟することを旨とし、平成26年4月に承認されました。また、令和2年2月には、勝山市として地域ESD活動推進拠点に登録。

自治体全体で登録されたのは当市が初めてで、他機関と連携して、ESDやSDGsに関する研修や小中学校での授業づくりを支援しています。

*1 まち全体を屋根のない博物館とみなすまちづくりの取り組み
*2 現在「持続可能な地域創造ネットワーク」として活動

進化を続ける勝山市のESD

勝山市は、持続可能なまちづくりを目指すために、ジオパークにエコミュージアムの理念とSDGsを統合して、地域のまちづくり活動や学習を推進しています。

こうした地域の学習に学校が参加するようになり、ジオパークを学習に取り入れたことで各校のESDは大きく発展しました。

また、教科の学習など学校での様々な活動とSDGsをひもづけることにより、子どもたちがSDGsを学活生活の中で意識することにも取り組み始めました。

SDGsを取り入れた勝山市のESDとジオパークは、相互に連携し、持続可能なまちづくりを押し進める強力なエンジンとなっています。



*1 大地（ジオ・Geo）の公園（パーク・Park）を意味し、地球を学び、丸ごと楽しむことができる場所

勝山南部中学校



伊豆蔵 和貴教諭

SDGsを授業に取り入れるメリットは、複雑なことを簡単に焦点化して考えられることです。

生徒たちが社会に関心を持ち、自分事としてとらえるための思考ツールとして利用していきたいです。



和田 倅奈さん (3年)

総合計画のアンケートで雪が多いことに市民が困っていることが分かり「13気候変動に具体的な対策を」の達成に取り組むことが住み続けられるまちづくりにつながると考えました。

みんなで勝山市のことを考えるのは楽しかったです。



11月19日、3年3組の生徒25人が、SDGsを取り入れた社会科の授業を受けました。

伊豆蔵教諭が財政の仕組みを説明したのち、第5次勝山市総合計画の6つの基本的視点にSDGsの目標をあてはめ「大事だと思うものを3つ選び、その理由を考えてください」と生徒に指示。

6つのグループに分かれた生徒は、どうすれば住みやすいまちになり、人口減少を抑えられるかを真剣に話し合いました。



専門家に「聞き取り」

勝山市のESDは、外部からどう評価されているのでしょうか。

広く各地のESDに携わり、勝山市にもご協力いただいている、北陸ESD推進コンソーシアムのコーディネーター 池端弘久さんにお聞きしました。



池端 弘久さん
(北陸ESD推進コンソーシアム)

全国的なESDの状況は？

日本が提案し国連総会で採択された「持続可能な開発のための教育の10年」が平成17年に始まり、世界的に弾みがつきました。日本のユネスコスクール加盟校は、平成20年に78校だったのが、現在1100校を超え、全国的に盛り上がっています。

今年度から学習指導要領が改定され、ESDやSDGsの精神にあふれたものになり大きく進展しています。

勝山市のESDの特徴は？

勝山市は長年地域学習に取り組

み、ジオパーク学習と融合しています。それを土台に、地域でも持続可能な社会をつくるための課題についての学習が始まっているのが特徴だと思っています。

また、全国でも全校がユネスコスクールに加盟するのは珍しいケースで、市を挙げた組織的な取り組みとして注目されていると思います。

勝山市の今後の課題は？

これまで以上に、地域で取り組んできた保全活動などが、ESDやSDGsでどんな価値を持っているのかを理解し、次の段階に進めていくことが非常に大事です。

学校教育では、国内や世界の共通の課題を持つ都市と交流していく事が重要になると思います。

世界は多様性に満ち溢れています。勝山市の外とどういう風に交流していくか、これからの展望に入ってくると思います。

最後に勝山市民にメッセージを

私は、勝山市から流れ出る水が近隣の都市を潤しているイメージを持っています。同じように勝山市で生まれたESDやSDGsの新しい風が遠くの地域へ届けばと思います。

勝山北部中学校

例年、「服のカプロジェクト」に参加しています。今年度も、1年生がSDGsに取り組む企業の一つであるGUの方に来ていただき、プロジェクトの概要を伺ったり質問をしたりしました。

今後は資源回収などを通して服を回収し、世界の生活に困っている方に服を届けるこのプロジェクトに本格的に参加していきます。



勝山中部中学校

伝統的に行われている浄土寺川とその周辺地域を舞台にした地域環境調査美化活動に今年度も取り組みました。

環境美化委員会が中心となって企画し、全校生徒に「協働」と「地域への貢献」を投げかけました。暑い中でしたが、全校生徒が地域の環境を次の世代につなぐことを意識して取り組むことができました。

